

【基本方針】

「団体生活の枠にとらわれず、家庭生活により近い施設生活の提供を行う」

【年間目標】

- ① 感染症予防対策を徹底し、蔓延を防ぐ
- ② 三大介護の基本を確立し、質の高いケアへと発展させていく
- ③ 個別ケアの実践
- ④ ご家族との連携の強化
- ⑤ 誰もが悔いの残らないターミナルケアを行う

【実践報告】

- ① 感染予防対策を徹底し、蔓延を防ぐ
 - ・ 5月に退院者からの新型コロナウイルスの持ち込みにより、入居者21名・職員2名のクラスターが発生した。クラスターは発生したものの、他施設のように職員が多数感染することなく、更にレッドゾーンを担当した職員・看護師が感染しなかったことは、自分たちの感染対策に自信を持つことが出来た
 - ・ DMA Tから感染対策について直接学ぶことが出来た
 - ・ 法人全体・多職種連携して取り組み感染拡大を防ぐとともに情報を共有することが出来た
 - ・ 1日5回(公休日は1日4回)の検温の実施、うがい・手洗いの励行、少しでも体調に異変を感じれば相談する、ワクチン接種など職員も出来る限り「もらわない・持ち込まない」感染症対策を継続して実施している
 - ・ 利用者に対してはもし感染者が確認された場合、最小限の隔離対応で済むように居室ごとの食事席・介助、居室ごとの入浴などを行っている。
 - ・ 退院者に対して、退院前のPCR・抗原検査の実施、退院後1週間の個室隔離を実施しこちらも「持ち込まない」感染対策をしっかり行っている。しかし、感染症に対して過に神経質になっているところもあるため、その時々状況に合わせ適切な判断ができるよう得た知識を発展させていきたい
 - ・ 実践は出来ているもののマニュアルの作成などが追い付いていない。新しい職員が来てもすぐに実践出来るよう、マニュアルやシュミレーションを適宜行っていく
- ② 三大介護の基本を確立し、質の高いケアへと発展させていく
 - ・ 科学的介護を進めていくためにLIFEの入力・フィードバックを受けることは行えている。しかしまだまだ入力することに精一杯の状態、どのように展開させていけばよいか不明確な状態。きちんと理解し、日々のケアに役立てていくとともに、統一した安全なケアを実践していきたい
 - ・ マニュアルに則したケアは実践出来ているが、実際の状況に即したケアは職員の力量や経験の差もありなかなか実践出来ていない。マニュアルを随時見直し、状

況に応じ統一したケアが実践出来るようにしていくことが今後の課題となる

- ・利用者が安全かつ安心して生活できるよう、日々状況に合わせて住環境を整備している。コロナ禍に対応した食事席の配置や消毒用品・空気清浄加湿器の配置なども行った。しかしその反面、感染対策で定期的な業者によるフロア清掃などが実施出来ず職員の手だけではまかないきれない状況があった
- ・接遇チェック表をうまく活用することが出来なかった。また項目や実施方法などを検討し実践していきたい

③ 個別ケアの実践

- ・余暇活動について、集団で行うレクリエーションは実施出来た。然しながら、利用者一人ひとりに応じたレクリエーションは実践出来ていない。今後は利用者の希望なども組み込み個々に応じた余暇活動や選択できる余暇活動など新たな取り組みを発展させていけるよう、知識を深め実践力をつけていきたい
- ・コロナ禍が続き、外出行事を企画することが全くできず、施設内だけで過ごしていただく期間が長くなっている。年度末の少し暖かくなった時期に屋上に上がり外の空気を感じてもらうことが出来た
- ・利用者の誕生日を当日にお祝いするとともに、月1回その月のお誕生日者にケーキプレートを提供。他の利用者も一緒にケーキを食べ、にぎやかにお祝いする事が出来た

④ ご家族との連携の強化

- ・上期はオンライン面会中心に行っていたが、下期の感染者数が落ち着いた期間に時間制限は設けたが直接面会を実施した。利用者にオンラインでコミュニケーションを取れる方は少なく、希望も少なかった。直接面会が可能となった時期は面会者が急増した。その後今年に入り感染者が増えたため直接面会は実施していないが、窓越し面会を継続して行っている。ご家族の中には諸事情ありワクチン接種が出来ない方もいるため窓越し面会は喜ばれていた
- ・利用者の誕生日にはご家族からのオンライン面会の予約も度々入ったため、可能な限り一緒にお祝いを行った
- ・YouTubeによる動画配信を利用者に限定公開している。行事やレクリエーションの様子だけでなく、日々のちょっとした動画の公開も行っている。またアクセスしやすいようにQRコードで動画を共有するなど工夫も行った。その他にもSNSを利用しふるさとでのご様子を共有することで、ご家族に利用者の様子を見ていただくことが出来た

⑤ 誰もが悔いの残らないターミナルケアを行う

- ・年間17名の方の看取り介護を行った。ご家族の思いも多岐に渡る事を痛感、看取りに向かうプロセスが大事であることが分かり、意向を確認できる書式の整備を行った。次年度以降もこの書式を有効活用し、居室環境等々出来る限り利用者・ご家族の希望に沿った形での最期を迎えて頂けるようにしたい。
- ・利用者の好きな食べ物を最後の食事として提供できる方には行った。出来る限り

最後まで口から摂っていただけるよう、ご家族とも相談しながら対応した。今後は、入居の面談時などで好きな食べ物の聞き取りを行っていきたい

- ・入浴は体調・体力が許す限りミスト浴で入っていただけた
- ・コロナ禍でも看取りの方は面会の制限を設けず実施。そのため入院先から退院してふるさとで最期を迎えられた利用者もいる。看取りにしっかり寄り添うことでご家族からは「ふるさとでよかった」というお言葉をいただけている。これからも引き続きそう思っていたいただけるよう支援していく。

【総括】

今年度は利用者の入れ替わりが激しく、総勢 26 名の入れ替わりがあった。施設が増えていることで待機者も減少しており、既に他施設に入居されている方も多く、新しい利用者の確保に苦戦した。また、入院者も多く本来であれば併設のショートステイ空床利用すべきところが、法人の感染症対策フェーズに応じて新規受け入れを停止している状態が続き、空床利用活用が出来なかった。年間稼働率目標を 99.5% としていたが、実際には 96.0% と大きく下回ってしまった

次年度は稼働を維持できるよう新規利用者の確保に努めるととともに、感染症対策をしっかり行いつつも利用者に施設外にも出ていただけるよう余暇活動を充実させていきたい

【神戸市事故報告】 2 件

(令和 3 年 9 月 2 日(木) 10 時 15 分発生)

パット交換時 8 月 29 日の入浴時に発見した右大腿部裏の内出血が、右大腿後面全体と右膝裏から足首まで拡大、右大腿骨の付け根は左に比べて右が大きく付け根の位置に内出血 1 ヶ所あり、少し動かすと顔をしかめられる状態

(改善内容)

介護度が高く重介護のため普段から負担のかからないようにしていた。特に以前に骨折した部位(左)に負荷がかからないように右側を下にして介助したことでなんらかの力が加わってしまった可能性がある。骨はもろく折れやすいため、全身状態を再度確認し、負荷のかからない介助方法を検討していく。

(令和 3 年 10 月 24 日(日) 5 時 30 分発生)

同室者のナースコールにより訪室。ベッドとチェストの間で長座位になっている所を発見。右下肢痛の訴え強く、腫脹もみられる。

(改善内容)

幻視・幻聴があり、子供の泣き声があったので心配になって見に行き転倒したと思われる。幻視・幻聴については内服調整行っているが安定しない。今後は日々の生活の中で精神的に安定するように内服調整も含め、ケア内容など検討し支援する。

【苦情受付】 0 件